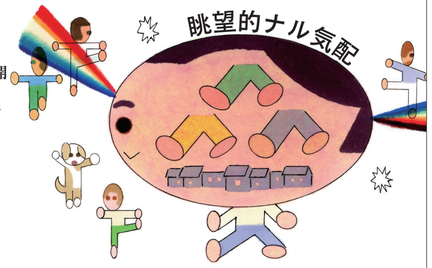
10.16 Fri — 11.1 Sun
特設ウェブサイトに
スライドショーを順次公開

11.14 Sat・11.15 Sun
短編映像を公開

特設ウェブサイト

企画デザイン：中村友美



なかむら・ともみ
新潟県生まれ。桜美林大学総合文化学群卒業。在学中に舞台美術を学ぶ。近年の参加作品に Q『バッコスの信女 —ホルスタインの姿—』、鳥公園『群わりにする、一人と一人が圧』、大阿修羅『ノー・マーク』など。くすのき荘（かみいけ木賃文化ネットワーク）メンバー。

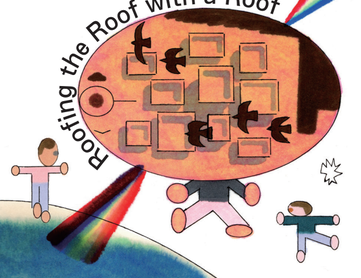
今年は昨年のプロセスも踏まえ池袋本町の商店街の「景」や「祝祭」にまつわる断片的な記憶を模型として立ち上げます。そういえば、舞台美術の自分が模型を作る時の思考のプロセスは作品を旅しているような感覚にもしかたら近く、それをどのようにお客さんに体験してもらえるかを想像するための手段の一つだったのかもしれない。半年ほど仕事ができなくなった期間を経て、春からのセノ派の準備期間にそんなことにぽんやりと気づきました。今年は少し離れた斜め上から眺めるようなイメージで、そこにいたかもしれない自分と、その自分が見ているかもしれないとある「まぼろしの商店街」の気配をお客さんと一緒に想像してみたいと思います。

10.16 Fri — 11.15 Sun
写真と映像作品を順次公開

特設ウェブサイト

企画デザイン：坂本 遼

さかもと・りょう
1984年神奈川県生まれ。國學院大學文部哲学科美学専修卒業。2009年から舞台美術研究工房・六尺堂にて舞台美術に携わる。mrs.fictions、世田谷シルク、ダレキの太鼓、劇団綿矢水煙、シンクロ少女などさまざまな劇団の舞台美術を担当。東京の小劇場演劇を中心に、舞台美術のデザインから製作までを担うほか、映画美術やインテリアも手がける。17年より東アフリカのルワンダ共和国にて行われる Ubumuntu ArtsFestival にセットデザイナーとして参加。18年にはブラネー・ミングセレモニー（Kwita Izina）の公場デザインにも関わる。



去年に続いてまちを劇場にして、舞台美術を元に作品づくりを考えるにあたって、今年はステージ部分のデザインより先に、客席をデザインし、客席をデザインするなら、観客をデザインしてみようと思いました。自分にとっては何でもない世界が、「誰か」や「物」を介することにより、突然身近に感じたり、新しい視点で見えることがあります。この作品を通して見える景色が、いつもひとりで見ているものと少し違った「景」に見えたら、と考えています。

フェスティバル/トーキョー20
会期 令和2(2020)年10月16日（金）— 11月15日（日）
会場 東京芸術劇場／トラムハウス大場／豊島区内商店街／F/T remote（オンライン会場）ほか

フェスティバル/トーキョー実行委員会
顧問 野村 萬（公益）日本芸能実演団体協議会会長　能楽師
名誉実行委員長 高野之夫　豊島区長
実行委員長 福地茂雄（公益）新国立劇場運営財団　顧問
（公益）公演メセナ協議会　顧問
アサヒグループホールディングス株式会社　社友
副実行委員長 吉村作知雄 NPO法人アートネットワーク・ジャパン 顧問
藤田 力　豊島区文化課工部長
小澤 弘一（公益）としま未来文化財団　事務局長
尾崎元規（公益）公演メセナ協議会　理事長
花王株式会社 顧問
熊倉純子　東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授
中田聖史　アサヒグループホールディングス株式会社
日本統括本部 事業企画部 理事
渡邊裕之　東京商工会議所豊島支部 会長
永井多恵子（公財）せたがや文化財団 理事長
小倉 裕　豊島区文化課工部文化デザイン課長
澤地弥縁子（公財）としま未来文化財団
あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）支配人
委員 米原晶子　NPO法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
長島 確　フェスティバル/トーキョー　ディレクター
河合千佳　フェスティバル/トーキョー　共同ディレクター
豊原巧尼　フェスティバル/トーキョー　事務局長
監事 能登麟子　豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー 福井健策、北澤尚登（弁護士法人法律事務所）

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
ディレクター 長島 確
共同ディレクター 河合千佳
事務局長 豊原巧尼
制作 藤島麻名、橋田彩か、植木雅苗、鈴木千尋、藤井友理、長田奈史、山藤昌雄、
盛狩裕子、岩間麻衣子、横松侑子（合同会社 syuu/gen）、金井美希、司田由李、
萩谷早稀子、宮内里奈、笠武恵美、宮本晶子（合同会社 syuu/gen）
コミュニケーションデザイン（広報/教育普及）チーフ 小倉明紀子
コミュニケーションデザイン（広報/教育普及） 名取萌音、興野乃里子、細川浩伸
コミュニケーションデザイン（広報/教育普及）アシスタント 森川浪成、植田あす美
票券チーフ 武井裕美
渉外 太田志保
経理 堤 久美子
五藤 真、中山恭一（株式会社countroom）
総務 米原晶子
技術監督 宮川英司
照明コーディネート 木下真己（株式会社ファクター）
音響コーディネート 相川 晶（有限会社サウンドウィーズ）
アートディレクション 高田 唯（Allright Graphics）
デザインコンサルタント 北條 勝（Allright Graphics）
デザイン 押藤彩実（Allright Graphics）
イラスト 芳賀あきな
音楽（PR動画） 東郷清丸（Allright Music）
PR動画 ダイノキトウ
ウェブサイト 相原 啓（Mnemo株式会社）
海外広報・翻訳 ウィリアム・ファンドリューズ
作品紹介文 鈴木理映子
主催 フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
東京芸術祭実行委員会（豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/
トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツ
カウンシル東京））
「トランスフィールド from アジア」助成 国際交流基金アジアセンター/アジア・文化創造協働助成
後援 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、サンシャインシティ、
ジュンク堂書店 池袋本店、理想科学工業株式会社、星野リゾート　OMO5東京大塚
協力 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、
一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、
池袋西口商店街連合会、特定非営利活動法人ビファー池袋まちづくり、
ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、池袋ホテル会、
サンシャインシティプリンスホテル、ホテルリソル池袋
宣伝協力 株式会社ボスターハウス・カンパニー

令和2年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

フェスティバル/トーキョー20は東京芸術祭2020の一環として開催いたします

Festival/Tokyo 2020
Dates
Friday, October 16–Sunday, November 15, 2020
Venues
Tokyo Metropolitan Theatre, TRAM-PAI, Otsuka, shopping streets in Toshima, online, and other locations

Festival/Tokyo Executive Committee
Advisor:
Man Nomura (Chair, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations; Noh actor)
Honorary President of the Executive Committee:
Yukio Takano (Mayor of Toshima City)
Chair of the Executive Committee:
Shigeo Fukuchi (Advisor, New National Theatre Foundation; Advisor, Association for Corporate Support of the Arts; Senior Alumnus, Asahi Group Holdings, Ltd)
Vice Chairs of the Executive Committee:
Sachio Ichimura (Director, NPO Arts Network Japan)
Chikara Fujita (Director, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Koichi Ozawa (Administrative Director, Toshima Mirai Cultural Foundation)
Committee Members:
Motaki Otaki (President, Association for Corporate Support of the Arts; Corporate Advisor, Kao Corporation)
Sumiko Kumakura (Professor, Graduate School of Global Arts, Tokyo University of the Arts)
Masashi Nakata (Senior Officer, Business Planning Department, Japan Headquarters, Asahi Group Holdings, Ltd)
Hiroyuki Watanabe (Chair, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima)
Taeko Nagai (Chair, Setagaya Arts Foundation)
Kei Ogura (Director, Cultural Design Section, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Naoko Hasaike (Toshima Mirai Cultural Foundation; Executive Director, Owlpost Theatre/Toshima Performing Arts Center)
Akiko Yonehara (Representative, NPO Arts Network Japan)
Kaku Nagashima (Director, Festival/Tokyo)
Chika Kawai (Co-Director, Festival/Tokyo)
Madoka Ashihara (Administrative Director, Festival/Tokyo)
Supervisor:
Kimiko Sato (Director, General Affairs Section, General Affairs Division, Toshima City)
Legal Advisors:
Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat
Director: Kaku Nagashima
Co-Director: Chika Kawai
Administrative Director: Madoka Ashihara
Production Coordinator: Maki Fujishima, Keisuke Shimada, Momoka Yanoki, Chihiro Suzuki,Yuuri Fujii, Takashi Onoda, Masao Yamagata, Yuko Igari, Maiko Iwama, Yako Uematsu (syuu/gen), Miki Kanai, Toshiyuki Shida, Saeko Hagiya, Mai Miyauchi, Aki Miyatake, Shoko Miyamoto (syuu/gen)
Communication Design Director (PR,Education & Outreach): Akiko Ogura
Communication Design (PR, Education & Outreach): Mone Natori, Noriko Okano, Hiromiu Hosokawa
Communication Design Assistants (PR, Education & Outreach): Kyosuke Morikawa, Asumi Ueda
Ticket Manager: Kazumi Takei
Liaison Officer: Shiho Ota
Accounting: Kumiko Tsutsumi, countroom (Makoto Gotoh, Kyoichi Nakayama)
Administrator: Akiko Yonehara
Technical Director: Eiji Torakawa
Lighting Coordinator: Naoki Kinoshita (Factor Co., Ltd.)
Sound Coordinator: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)
Art Director: Yui Takada (Allright Graphics)
Design: Takami Saito (Allright Graphics)
Design Coordinator: Mai Hoju (Allright Graphics)
Illustrator: Akina Haga
PR Video Music: Kiyomaru Togo (Allright Music)
Publicity Video: Dino Sato
Website: Shun Aizawa (Mnemo, Inc.)
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Copywriting: Rieko Suzuki
Organizers: Festival/Tokyo Executive Committee (Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ], Tokyo Festival Executive Committee (Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, Festival/Tokyo Executive Committee, Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture [Tokyo Metropolitan Theatre & Arts Council Tokyo])
"Transfield from Asia"Grant:
The Japan Foundation Asia Center Grant Program for Promotion of Cultural Collaboration
Endorsed by the Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO, J-WAVE 81.3 FM Special cooperation from SEIBU IKEBUKURUHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshine City, Jankude Ikebukuro, RISO KAGAKU CORPORATION, Hoshino Resorts OMO5 Tokyo Otsuka
In cooperation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporate Taxpayers' Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Hotel Metropolitan Tokyo Ikebukuro, Hotel Grand City Ikebukuro, Ikebukuro Hotel Association, Sunshine City Prince Hotel, HOTEL RESOL IKEBUKURO
PR Support: Poster Hari's
Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2020
Festival/Tokyo 2020 is organized as part of Tokyo Festival 2020.

TOSHIMA Entertainment City Art & Culture 国際アート・カルチャー都市としま
公益財団法人 としま未来文化財団 Toshima Mirai Cultural Foundation
ANJ Arts Network Japan
東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre
ARTS COUNCIL TOKYO
TOKYO TOKYO. WHERE THE FUTURE IS ART Tokyo Tokyo FESTIVAL
東京 Tokyo 2020 Festival

発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会　〒171-0031東京都豊島区目白5-24-12 出高和中学校4F　TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 https://www.festival-tokyo.jp/20.html
編集：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局　編集協力/鈴木理映子　アートディレクション/高田 唯（Allright Graphics）　デザイン/山田智菜（Allright Graphics）

アンケートフォームはこちら→

移動祝祭商店街
まぼろし編

企画デザイン：セノ派

Roaming Shopping Street Festival: Phantom Edition

Project Design: Sceno-ha (Scenographers' Collective)

10.16 Fri — 11.15 Sun
特設ウェブサイト、
豊島区内商店街、
F/T remote（オンライン配信）
Special Websites,
shopping streets in Toshima,
F/T remote (available online)

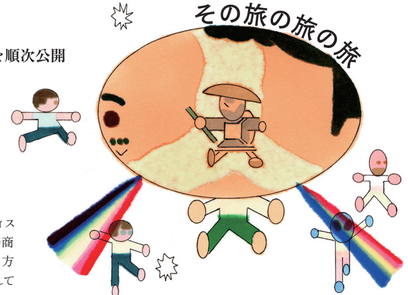
『移動祝祭商店街 まぼろし編』特設サイト
https://www.scenoha-festivaltokyo.jp

フェスティバル / トーキョー 20 主催プログラム
FESTIVAL / TOKYO

10.16 Fri — 11.15 Sun
アーティストによる《景》を順次公開

特設ウェブサイト、
豊島区内商店街、
豊島区内各所

企画デザイン：杉山 至



今回のプロジェクトは、ゲストアーティストを旅の道連れに、昨年の移動祝祭商店街の舞台を旅し、様々な景のあり方を発見し、それを様々な手法で素描してもらう。その旅の旅を参加者にも旅してもらい、商店街に潜む様々な景を巡ってもらうのが狙いである。「旅の旅の旅」の中で正岡子規がいう。"かかる旅は夢と異なるなきなり"と。そんな夢のような景を巡る旅をあなたも旅してみませんか? 旅を旅する旅人のように。

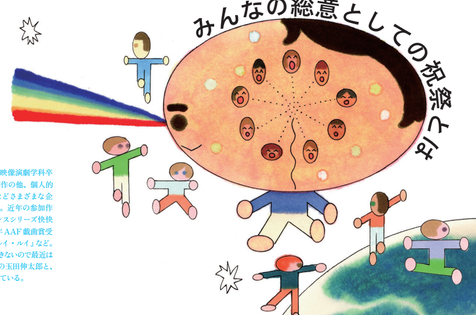
すぎやま・いたる
国際基督教大学在学中より劇団青年団に参加。2001年度文化庁芸術家在外研修員としてイタリアに滞在。演劇、ダンス、ミュージカル、オペラまで、ジャンルを問わず幅広く活躍。舞台美術ワークショップや劇場のリノベーションも手がけている。カイロ国際演劇祭ベストセノグラフィー・アワード 2006、読売演劇大賞最優秀スタッフ賞 (14) 受賞。

11.1 Sun — 11.15 Sun
計10日間程度開催（予定）
※特設ウェブサイトにて順次情報掲載

南大塚3丁目エリア

企画デザイン：佐々木文美（快快）

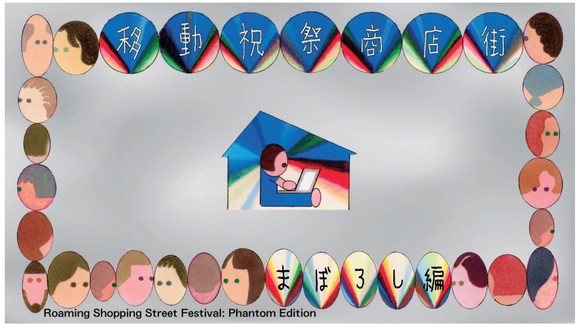
ささき・あやみ
1983年鹿児島県生まれ。多摩美術大学 映像演劇学科卒業。快快メンバー。FAIFAI での演劇制作の他、個人的に演劇、ダンス、コンサート、展示などさまざまな企画に舞台美術担当として参加している。近年の参加作品として、F/T17 まちなかパフォーマンスシリーズ快快「GORILLA 一人間とは何か〜」、2018年 AAF 戯曲賞受賞記念公演「シティ III」、19年快快「ルイ・ルイ」など。大好きなホームパーティーがなかなかできないので最近は快快の役者である山崎晴司、映像作家の玉田伸太郎と、ラジオ「ポテトタイム」を人知れず配信している。



今年も去年に引き続き南大塚で移動祝祭商店街を開催いたします。ただ、今年は、密を避けないといけません。そこで、脳内祝祭を開催することにしました。そのためのきっかけとして、街中に顔ハメパネルをたくさん配置します。みなさん、そのパネルに、顔を出して写真を撮ってみてください。すると、まぼろしの祝祭をみることができます。

人が集まれない時代に、舞台美術家はいかなる「景」を生み出すのか

——セノ派・杉山 至インタビュー



「セノグラフィー」との出会い

——杉山さんはかねてより「舞台美術」だけでなく「セノグラフィー」という言葉を使われていますよね。「セノ派」もこの言葉からとられています。いつ頃からセノグラフィーという概念を意識されたんでしょうか。

2001年頃にイタリアに行ったことがきっかけです。名刺をつくる必要があって舞台美術家をイタリア語に訳した「Scenografo」を使っていたのですが、宿のおばさんにその肩書を伝えたら「すごいわね」と驚かれて。Scenografo＝セノグラファー—というのは建築家や教授／研究者と同じようなものできまざまな領域の知識がなければできないことなのだと言われて、それはまさに自分が考える舞台美術と重なるなと思ったんです。

——舞台美術自体には、すでに当時から携わられていたということですね。

そうですね。それまでは「舞台美術」という言葉を使っていたんですが、イタリアに行ってからセノグラフィーという発想を意識的に考えるようになりました。その方が自分にとってもしっくりきたんです。舞台美術というと舞台上の美術をつくるようなイメージですが、実際はぼく自身も劇場をつくることやお客さんとの関係性をつくることにも興味があったし、事実、歴史的に見てもイタリアの舞台美術家たちは当たり前のように建築にも携わっていた。

——杉山さんにとっては最初から舞台美術というよりセノグラフィーの意識があった、と。

大学生のときに舞台美術をつくっていたときも、元からステージがあるわけではなく普通の教室に劇場をつくることから制作が始まっていましたからね。そもそも大学で（平田）オリザさんに出会ったことがきっかけとなって舞台美術に携わるようになったのですが、まず興味をもったのも舞台美術というより建築でした。その後大学を卒業してから早稲田大学芸術学校に入って建築を学んだんです。この学校はかつて建築家の吉阪隆正さんが校長を務めていて、「発見的方法」や「有形学」など吉阪さんの思想が色濃く表れていたのが面白かったですね。

「景」から舞台芸術を考える

——杉山さんは舞台美術を考えるうえで「景」という概念も重視されていると伺いました。それも大学での経験が関係しているのでしょうか。

「景」の概念を意識するようになったのは、むしろ最近なんです。2011年に品川に引越してからこの土地について調べていたら、ものすごい量の浮世絵が描かれていることがわかって。なぜ浮世絵師が品川を題材にたくさんの作品を残したのか考えていくなかで、景という概念にたどり着きました。自然を題材にしたものや色を描いたもの、街道の風景など描かれている景色も多彩で、自然と人間の結びつきを考えるうえで「景」が重要なキーワードになると感じたんです。そこからセノグラフィーと景を紐付けて考えたいと思うようになりましたね。

——セノグラフィーや景を意識するようになったことで、実際の制作も変わりましたか。

意識も変わるし、つくり方もどんどん変わりますね。戯曲に書かれている世界だけではない空間をどう掘り下げていけるのか考えるようになりました。ぼくだけではなく、ピナ・バウシュが芝生を使うなどある時期からランドスケープを劇場のなかに取り込んでいくような流れも生まれていたように思います。セノグラフィーが扱うシーン（scene）は、舞台の上だけではなくいろいろな場所にあるのかなと。

——舞台芸術は劇場の中だけではなくて社会へと広がっていくものだということでしょうか。

とくに海外では舞台芸術と社会が自然につながっている気がします。たとえば舞台芸術の祭典といわれるプラハ・カドリエンナーレで毎回開かれているカンファレンスでは、移民やポピュリズムなどの問題が盛んに論じられています。イギリスではセノグラフィーではなくパフォーマンスデザインという言葉を使おうとする動きもあって、舞台や劇場に縛られていないのはもちろんのこと、人と人が交わるところで総合的なデザインを行なうことが重視されている。日本を考えてみても、たとえば2.5次元と呼ばれる作品やZoom演劇などは従来の舞台芸術からはみ出しているといえる。とくにZoomのような技術を使った配信・映像作品の制作はこれまでと大きく異なっていますよね。先日Zoomで作品をつくるワークショップに参加させてもらったんですが、そのとき脚本・演出を担当していた劇団ロロの三浦さんは、映像作品と劇場で見る演劇とでは客席のあり方が異なっていると言っていて。そもそもシアター（theatre）の語源にあたるギリシャ語のテアトロン（theatron）も舞台や演劇作品ではなく「客席」を指す言葉なんですよね。セノグラフィーの視点から考えると、社会の中で客席や劇場のあり方そのものを再考していく必要があるのだと感じました。

舞台芸術とテクノロジーの関係性

——Zoomのようなサービスを使う場合は作品をつくるときの考え方も変わりそうですね。

これまでは現実の空間の中にどうシーンをつくるか考えていましたが、ひとつの画面の中にどうシーンをつくれるのか考えないといけないですね。いまはぼくが受け持っている大学の授業もすべて遠隔にシフトしているんですが、もはや学生の方がサービスを使いこなしていて。若い人の方が発見も多いし新しい手法も生み出せる。もちろんメディアによる制約も多いですが、制約によってより多くの発見が生まれているとも思います。

——メディアという点では、2.5次元の舞台は映像が多様されますよね。その場合はまた舞台美術の考え方も変わるものなんでしょうか。

基本的には2.5次元の作品も平田オリザの作品もぼくのなかでは同じなのですが、強いていえば映像やプロジェクションマッピングを多用する2.5次元の舞台は平面性を意識せざるをえないので、舞台上の平面や映像を映す素材に制約が生じます。一方では、同時に新たな素材の開発も進んでいるので日々状況も考え方も変わっていくのかなと思います。

——テクノロジーの発展と舞台美術はつながっている、と。

——なぜ「まぼろし」なんでしょうか。

まぼろしとは、「ビジョン（Vison）」です。舞台美術をつくるときも最初にコンセプトを考えてビジョンをつくったうえで線を引き始めるわけですが、今年はビジョンをつくってもその先をつくれない。それは目に見えないものでもあるし、未来を見ることでもある。そういった状況下で、実際にあるかわからないし目に見えないまぼろしの景を立ち上げるような作品をつくれたらと思いました。

——言われてみると、舞台芸術は何もないところにまぼろしの景を立ち上げるようなものでもありますね。

以前渡辺えりさんから演劇は「幻景」だと言われたこともあって。セノグラフィーのワークショップのなかで光／風／情／色のようにに「景」と結びつく言葉を参加者に新しく考えてもらっていたら、たまたま立ち会ってくださった渡辺さんが「私なら“幻”を入れる」と仰っていた。妄想の中で景が立ち上がって芝居も生まれていくわけで、景と幻は相性がいいのだと気づかされました。

——まぼろし編のなかで杉山さんは「その旅の旅の旅」というプロジェクトを担当されていますが、なぜ「旅」に着目されたんですか。

正岡子規が『旅の旅の旅』という作品のなかで、俳句を書くための旅、吟行について書いているのを読んだんです。俳句ってある空間の景と出会ったときに体が感じたことを言葉にしていく振る舞いでもある。今年は人がたくさん集まれなくても景を発見できるわけで、ならばいっそのこと名所をめぐる旅のようにたくさんの人が時間をズラしながら同じ場所を訪れるようなものをつくれたらと思いました。具体的には、6人の「旅人」がつくった作品を手がかりに鑑賞者の方々が池袋や大塚各地をめぐり、そこを訪れた人も文章や俳句を投稿できるような仕組みをつくっていくつもりです。

——一人ひとりが街に出て景を見出していくような作品になるわけですね。

そうですね。べつに表現方法は俳句や言葉だけじゃなくてもいいし、絵でも音でもいい。もしかしたら味や匂いが浮かんでくる人もいるかもしれないですよね。人それぞれが景を発見できるような作品をつくれたらなと。パフォーミングアーツは概して同時性が前提となっていますが、今回は違う時間を重ねていきながら地層のようにたくさんの人が同じ場所に集まっていくような取り組みによって、新たな景を見出していこうとを目指していきます。

（インタビュー・文：もてスリム）

「その旅の旅の旅」

企画デザイン：杉山 至
旅人：阿部健一（劇作・地域計画）、牛川紀政（舞台音響・DJ）、佐藤文香（俳句）、杉山至（セノグラフィー）、とくさしけんご（作曲）、山内健司（俳優）
ドラマトゥルク：阿部健一
ドラマトゥルク補：東 彩織
景シート・バナーデザイン：齋藤優衣
景シート地図制作：酒井七瀬、成澤茉由、高橋ひかる
参加方法イラスト：泉 美菜子

——

「Roofing the Roof with a Roof」

企画デザイン：坂本 遼
メンバー：大橋 翔（映像）、坂本 遼（舞台美術）、清水友輔（哲学）、舘 そらみ（演劇）、福島奈央花（舞台美術）
舞台監督：酒井健太
録音：岩間 翼
照明：前川賢世子、渡邊詩湖
音楽：フジモトヨシタカ

——

「みんなの総意としての祝祭とは」

企画デザイン：佐々木文美
メンバー：佐々木文美（舞台美術家）、玉田伸太郎（映像作家）、
菅 俊一（コピーライ/ーデザイナー）、山野英之（グラフィック・デザイナー）
撮影クルー：桑原史答、草間大輔、河村美帆答、谷淵龍一、前野未来、金井美希
パネルデザイン：田岡美紗子
エスペラント：相川拓也、荒井和博、近藤慶太 他
「20/11/7 これは去年の動画です」映像制作：合同会社アロポジデ

——

「眺望的ナル気配」

企画デザイン：中村友美
メンバー：中村友美（#もけい）、星 栗里（#ことば #しゃしん）、
司田由幸（#へんしゅう #せいさく）、魚森理恵（#あかり）、寺田美一（#おと）
映像協力：泉山朗土

——

宣伝デザイン：高田 唯（Allright Graphics）
イラストレーション：パク・セハン
ウェブサイト：株式会社ボクスグラフ
ウェブサイト編集・執筆：もてスリム
ドラマトゥルク：阿部健一
制作：藤島麻香、鳴田敬介、（フェスティバル/トーキョー）、
岩間麻衣子、司田由幸（砂の上の企画）
特別協力：池袋本町通り商店会、池袋中央通り商店会、
としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会、南大塚キットワーク、
一般社団法人みんなのトランパル大塚

協力：iTerrace落合南長崎、大塚記念碑、株式会社はらだ葬祭、
BAR BER マエ、南大塚都電沿線協議会、
MM MART WORLD WIDE HALAL FOOD、
株式会社文天不動産

主催：フェスティバル/トーキョー

The Journey to a Journey to a Journey

Project Design: Itaru Sugiyama
Travelers: Kenichi Abe (playwriting, spatial planning), Norimasa Ushikawa (stage sound, DJ), Ayaka Sato (haiku), Itaru Sugiyama (scenography), Kengo Tokusashi (music), Kenji Yamauchi (actor)
Dramaturge: Kenichi Abe
Assistant Dramaturge: Saori Azuma
Scene Sheets and Banner Design: Yui Saito
Scene Sheet Map: Nanase Sakai, Maya Narisawa, Hikaru Takahashi
Participation Guide Illustrator: Minako Izumi

——

Roofing the Roof with a Roof

Project Design: Ryo Sakamoto
Collaborators: Sho Ohashi (video), Ryo Sakamoto (stage design), Yusuke Shimizu (philosophy), Sorami Date (theatre), Naoka Fukushima (stage design)
Stage Manager: Kenta Sakai
Sound Recording: Tsubasa Iwama
Lighting: Kayoko Maekawa, Shiina Watanabe
Music: Yoshitaka Fujimoto

——

A Festival by Everyone

Project Design: Ayami Sasaki
Collaborators: Ayami Sasaki (stage designer), Shintaro Tamada (video artist), Shunichi Suge (cognitive designer), Hideyuki Yamano (graphic designer)
Film Crew: Fumika Kuwabara, Daisuke Kusabiraki, Mihoka Kawamura, Ryuichi Taniura, Miku Maeno, Miki Kanai
Panel Design: Misako Taoka
Esperanto Team: Takuya Aikawa, Kazuhiro Arai, Keita Kondo, and more
2019 Event Video Production: Alloposidae

——

Dioramic Scenes

Project Design: Tomomi Nakamura
Collaborators: Tomomi Nakamura (models), Mari Hoshi (words, photos), Yoshiyuki Shida (editing, production), Rie Uomori (lighting), Eichi Terada (sound)
Video Support: Road Izumiyama

——

Publicity Design: Yui Takada (Allright Graphics)
Illustrator: Ssehan Parc
Website: Voxgraph Co., Ltd.
Website Editing, Writing: Moteslim
Dramaturge: Kenichi Abe
Production Coordinators: Maki Fujishima, Keisuke Shimada (Festival/Tokyo), Maiko Iwama, Yoshiyuki Shida (Suna no Ue no Kikaku)
In special cooperation with the Ikebukuro Honcho Shopping Streets Association, the Ikebukuro Chuo Shopping Streets Association, Association for Cooperation Project of Toshima Minami-Nagasaki Tokiwaso, Minami-Otsuka Network, Minna no TRAMPAL Otsuka
In cooperation with iTerrace Ochiai-Minaminagasaki, Otsuka Kinen-yu, Harada Funeral Director, BAR BER Mae, Minami-Otsuka Toden Line Area Association, MM Mart Worldwide Halal Food, BUNTEN FUDOUSAN Co., Ltd.

Presented by Festival/Tokyo